

令和 3 年 9 月 1 日

宮城県高等学校野球連盟

1. 開催中止の判断

- ① 宮城県教育委員会や仙台市教育委員会から、部活動の大会自粛の指示が出た場合は中止とする。
- ② 大会前、大会中に関係者から感染者が発生した場合は、日本高野連が策定した対応表に沿って、次の通りとする。

	感染者が発生した場合の対応	濃厚接触者（家族や職場などで感染者が出た）となった場合の対応
大会役員 審判委員	感染者以外の大会役員、審判委員が感染者とどのような接触歴があったかを確認する。保健所から濃厚接触者の指定を受けた場合は保健所の指示に従う。その間は別の大会役員、審判委員が運営にあたる。	当該者は保健所の指示に従い行動する。その後、保健所の指示に従い検査を実施し陰性が確認され、体調不良や高熱などの症状が出なかった場合は復帰可（経過観察期間など十分に確認する）。
指導者 部員	当該校は保健所から陽性者以外の濃厚接触者の特定や今後の行動に関する指示を行う。当該校は感染者、濃厚接触者以外の行動を参考にチーム内の体調不良者がいないかを確認した上で大会参加を判断する。当該校の意向を踏まえ、運営委員会で決定する。	当該者は保健所の指示に従い行動する。当該校はそれ以外の指導者、部員で試合参加を検討する。当該者は保健所の指示に従い検査を実施し、その後体調不良や高熱などの症状が出なかった場合は、 <u>学校長の許可を得て</u> 試合参加可。

2. 来場者の健康管理

- ① 検温と健康観察を継続して行うこと。また 2 週間前からの行動歴（いつ、どこに行き、誰と会ったか）を記録しておく（様式 B）。
- ② 大会参加について、保護者の同意を得てから「証明書」と「選手資格証明書」を作成し、同意の得られない生徒は大会には参加・引率しない。
- ③ 「証明書」と「選手資格証明書」は地区大会と県大会それぞれに作成することとする。
- ④ 大会 2 週間前より、高熱が発生した選手がいた場合は、練習に参加させず医療機関での受診を勧める等の措置をとる。
- ⑤ 厚生労働省が開発した新型コロナウイルス接触確認アプリ「COCOA」の登録を推奨する。
- ⑥ 有観客試合とした場合は、来場者に氏名・連絡先の記入をお願いし、体温検査実施の協力をいただく。検温の結果、37.5℃以上の発熱がある方は入場をお断りする。

3. 地区大会と県大会出場校数

- ① 敗者復活戦を取り入れたトーナメント戦で地区大会を実施する。地区大会の抽選会は地区毎に実施し、抽選者は主将もしくは学校の顧問とする。
- ② 甲子園出場校については無条件で県大会へ出場でき、順位決定戦から地区大会に参加するものとする。

- ③ ドント方式を用いて、甲子園出場校を除いた27校を県大会出場校数として各地区に割り当てるが、これが28校となった場合は、甲子園出場校の該当地区から1校減じて、県大会出場校数は28校とする。
- ④ 秋の地区大会ではシード制を採用しない。
- ⑤ 「証明書（1通）」と「選手資格証明書（2通）」は、大会初戦の会場に提出する。地区大会期間は練習試合並びに選手変更を認める。選手変更を行う場合は、所定の「大会参加者変更届」を本部に提出する。連戦となり、公印がいただけない場合もあるため、地区大会では公印なしでも変更届は認めるものとする。一度変更した選手を、再登録する場合にも同様の方法で行うものとするが、その際は最初に登録した背番号にのみ再登録することができる。
- ⑥ コロナ感染予防のため、2試合開催の場合は9時と11時45分、3試合開催の場合は8時半、11時15分、14時とする。前の試合が早く試合終了しても、2試合目の試合開始は20分以上早めず、試合間は必ず45分程度間隔をとって行う。2・3試合目のベンチ入りはベンチ消毒完了後とする。また試合前の立ち会いの時間は、第1試合は試合開始予定時刻の30分前、2試合日以降は試合開始予定時刻の1時間前とする。

4. 県大会抽選会

- ① 県大会の抽選会は9月13日（月）仙台工業高校で行い、抽選者は顧問1名とする。
- ② 本戦で勝ち上がったチーム同士は、初戦では当たらないものとし、かつ同地区で本戦勝ち上がりのチーム同士は準々決勝まで当たらないものとする。
- ③ 抽選は本戦勝ち上がりのチームから抽選を行い、敗者復活戦を勝ち上がったチームは残りの番号をフリーで抽選する。
- ④ 試合時間並びに試合前の立ち会いの時間は地区大会に準じる。
- ⑤ 「証明書（1通）」と「選手資格証明書（1通）」は9月13日（月）の組み合わせ抽選会の受付に提出する。選手変更は大会前日の9月16日（木）の12時必着（宮城県高野連宛にメール送信）まで認め、その後の変更は原則認めない。選手変更届の原本は出場初日に試合球場に提出するものとする。ただし、コロナ感染に伴う選手変更に限り、試合の前日まで選手変更を認める。その際も選手変更届を提出するものとする。感染が疑われた選手を、再登録する場合にも同様の方法で行うものとするが、その際は最初に登録した背番号にのみ再登録することができる。
- ⑥ 大会中の練習試合は認めないが、敗戦後はこの限りではない。
- ⑦ 大会パンフレットは事前申請購入とする。事前に希望冊数を調査し、抽選会時に代金を納入する。パンフレットは大会初日に各球場で配付する。チームへの無料配付は行わない。

5. 選手の移動・宿泊・試合観戦等

- ① 送迎バスを利用する場合は、除菌や換気を行い、座席間隔を空けて着席するなど感染防止対策を講じる。公共交通機関を利用する場合は、混み合う時間帯をなるべく避けるように注意する。
- ② やむを得ず宿泊を伴う場合は、個室や食事の個別提供が可能な宿泊場所とし、宮城県高野連宛に事前に連絡する。また、不要不急の外出は自粛してもらう。
- ③ 移動中や試合会場で食事をする場合は、人と人との間隔（できるだけ2m最低1m）を空け、対面になることを避けるように努める。
- ④ 昼食をとるためにスタンド等を利用しても構わないが、試合観戦やビデオ撮影を目的に球場内に入ることは、感染予防の観点から禁止する。

6. 試合

- ① チーム関係者は起床後検温、体調チェックを行い、その結果を責任教師は検温確認表（様式A）に記載した上、メンバー表交換時に大会役員に提出する。3年生等が補助員として参加する場合も検温確認表に追記して提出することとする。起床後あるいは球場入場時に 37.5℃以上の発熱や体調不良(倦怠感、呼吸困難など)が発生した場合は、球場への来場、入場することを禁止し、速やかに医療機関を受診する。その場合、責任教師は速やかに大会本部まで連絡する。
- ② チーム毎にマスク着用を励行し、手指消毒を行う等の感染予防に努める。
- ③ 道具についても試合前後の除菌消毒を徹底する。なお、ヘルメットに関してはSGマークのついた破損していないものであれば、多少の違いを認める。
- ④ 飲料水やタオル等は個人専用とする。クーラーボックスをベンチ内に持ち込むことは許可するが、ジャグをベンチに持ち込むことを禁止する。
- ⑤ ウォーミングアップ時、選手のマスク着用は義務づけない。ただ、球場外でウォーミングアップをする場合、観客近くで行うこともあるため、マスク着用をすることが望ましい。
- ⑥ 試合中、ダッグアウト内の責任教師、監督、選手、記録員、ボールボーイは熱中症対策を十分に講じてマスクを着用すること。グラウンドで試合に出場している選手はマスクの着用は義務付けない（ベースコーチを含む）。
- ⑦ 円陣を組んでのミーティングや試合前後の挨拶を禁止する。タイムをかけて話し合う場面では、グラブで口を覆ったり、対面で話すことがないように工夫する。また、ハイタッチ等の接触を伴う行為は自粛する。
- ⑧ 試合後の校歌斉唱は適度な間隔を保った上で行う。
- ⑨ 試合前後の挨拶は、発声を自粛し一礼のみとする。
- ⑩ シートロック後、5回終了時、試合後のグラウンド整備は当該校で行う。
- ⑪ 試合後は、ベンチ内の除菌作業を責任教師同席のもと当該校で行う。
- ⑫ 審判が4人制でない場合もある。
- ⑬ 補助員として、3年生を参加させても構わないが、その際は保護者の同意を得て、公式戦ユニフォームもしくは平服を着用することとする。

7. 応援・観戦

- ① 全試合において完全無観客試合とする。来場できるのは、加盟登録された部員（1・2年生）と指導者のみとする。3年生は補助員として参加する場合のみ許容する。またチーム毎に5名まで（登録されていないコーチ、教職員、写真業者等）の入場を、「検温確認表（様式A）」に追記する形で認める。入場者は検温と手指消毒を徹底し、高野連PASSカードをぶら下げて球場に入場する。
- ② 入場者は、スタンドで両手が届かない間隔を空けて試合を観戦する。声を出しての応援は自粛し、拍手やメガホンをたたく行為のみとする。ハイタッチや座席の上に立ったり、一カ所に集まる行為、タオルを回す行為がないように事前告知を行う。
- ③ チームとして太鼓1個の持ち込みを許容する（名取市民球場を除く）。

8. 報道への対応

- ① 報道各社には、1社1球場あたりの取材者人数を限定し、報道受付で入場申請書を記入した後は、原則スタンドで取材を行う。大会本部には報道席を設けない。

- ② 試合前の選手や監督への取材は禁止する。また、試合後の取材については、各チーム1名以内の指名選手を大会本部で取りまとめ、各校の責任教師の了解を得た後5分以内で行う。指名選手以外の取材は禁止する。
- ③ 大会前の参加校への取材については原則禁止する。取材の必要がある場合は、責任教師を通じて各学校長の許可を得たのち実施する。
- ④ 進路関係者（社会人や大学関係者等）についても、入場申請書を記入して球場への入場を認める。

9. 大会運営

- ① 全ての試合において、ボール3球とロジン1袋を各校で持ち寄ることとする。
- ② 運営委員も事前に検温を済ませ、手指消毒を徹底する。大会本部は密集を避ける工夫を施し、パソコンやアナウンスマイク等は使用者が代わる度に消毒する。
- ③ 運営委員は感染予防のため、マスクや手袋を着用して大会運営に従事する。
- ④ 場内アナウンスやSBOに関しては、両校のマネージャーの協力が得られない場合は運営委員が行う。運営委員不足により場内アナウンスがない場合もある。
- ⑤ 県大会より「一球速報」を導入する。運営委員不足の場合は、イニング速報を行う。
- ⑥ 選手の健康管理のため、球数制限の運用を行う。試合前に投球実績表を責任教師に配付し、球数を確認し、1週間内に500球を越えないように選手の健康管理に努める。関節機能検査については、医療関係者と調整を行い、可能な限り実施する。
- ⑦ 県大会中、本部に看護師を常駐させるよう努める。来場者の中に発熱や体調不良など感染が疑われる人が出た場合は検温を行い、疑いがあるようであれば保健所の電話相談窓口に連絡して指示を受ける。
- ⑧ 審判員も事前に検温を済ませ、手指消毒を徹底する。審判員への給水は審判団に依頼する。感染予防のため、タオル提供は行わない。
- ⑨ 少年野球の始球式等は実施しない。

10. 感染者が発生した場合の対応

- ① 大会前、大会中に大会関係者、チーム関係者から感染者や濃厚接触者が発生した場合は、1の「大会前、大会中に関係者から感染者が発生した場の対応について」を参考に対応する。
- ② 大会を終えた後、14日間以内に新型コロナウイルスに感染した場合、あるいは感染が疑われた場合は、速やかに宮城県高等学校野球連盟に書面にて報告する。
- ③ 球場で観戦後、14日以内に一般入場者や学校応援者が感染者となった場合、大会中であれば大会本部、大会後であれば宮城県高野連事務局（仙台工業高校）まで連絡してもらう。
- ④ ③となった場合、試合会場となる球場とも情報共有し、保健所の指示に従いホームページで感染者発生の情報発信や観戦した観客への連絡等然るべき措置をとる。

11. 参加校の大会参加可否の判断基準

- ① 大会中、参加校から感染者ならびに感染の疑われる者（濃厚接触者）が判明した場合、参加校責任教師から情報収集（感染者数、行動歴、保健所の指示内容）に努める。
- ② 当該校は感染者、感染が疑われる者の人数や行動歴、保健所の指示を踏まえ、当該校校長が参加の可否を判断する。
- ③ 大会への参加を辞退する場合は、「大会参加辞退」が学校長判断のもと確定しだい、責任教師が理事

長に電話連絡を行う。その後、「大会参加辞退届」を宮城県高等学校野球連盟（仙台工業高校佐藤事務局長宛）に郵送により提出する。

- ・ 文書作成期日は電話連絡を行った日時とする。
 - ・ 学校長の押印を必要とする。
 - ・ 辞退理由は「大会参加規程によるもの」とする（詳細は必要なし）。
- ④ 主催者は参加校校長の判断を尊重し対応する。しかし、当該校の感染状況（部内での集団感染や集団感染が予見されるなど）によっては出場を差し止めることもある。
- ⑤ なお、参加校から感染者や感染が疑われる者が発生した場合、大会日程・組み合わせ表は原則として変更しない。ただし、日程を繰り下げることで当該校の大会出場が可能な場合は、臨時の運営委員会を開き日程を検討することもあり得る。その場合、同一回戦の日程で日程変更を検討することを原則とする。
- ⑥ 連合チームの申請後の、不祥事や参加辞退届による選手不足は再連合を認めず、関係校はすべて不戦敗とする。